

運輸政策研究所 第35回 研究報告会

世界遺産を活用した観光振興の あり方に関する研究

A Study on Tourism Promotion
by World Heritage

平成26年5月27日
主任研究員 小室 充弘
Mitsuhiro Komuro

今回の報告内容

1. 研究の背景と目的
2. 世界遺産についての概説
3. 世界遺産と観光の関係についての整理
 - ①日本の世界遺産の類型化及び研究対象の絞込み
 - ②文献調査(重点研究対象5件)
 - ③地方自治体等へのヒアリング(②のうち2件)
 - ④まとめ
4. 今後の進め方

研究の背景

○観光立国の実現は重要な政策課題

- ・観光は日本の力強い経済を取り戻すために極めて重要な成長分野。
- ・国内の観光需要を喚起するとともに、世界の観光需要を取り込み、地域経済の活性化、雇用機会の増大などにつなげることが重要。

○地方部では観光による地域活性化への期待が高揚

- ・観光客の増加による地域経済の活性化、地場産業の再生、雇用の創出に対する期待感

(参考)旅行消費による経済効果(平成23年度) ～裾野が広い～

旅行消費額	22.4兆円
↓	
生産波及効果	46.4兆円
付加価値誘発効果	23.7兆円
雇用誘発効果	397万人
税収効果	4.0兆円

研究の背景

- 地域の**観光振興**のためには、**地域固有の観光資源**を発掘・活用して**魅力ある観光地づくり**を進め、その魅力を内外にアピールしていくことが不可欠。
- 日本国内には**ユネスコの世界遺産が17件**※存在。**世界遺産登録は、観光振興を直接の目的とするものではないが、国内外の観光客を集めるための観光資源としての活用も期待される**ところ。

※今夏に**富岡製糸場と絹産業遺産群**が**世界遺産登録**されれば**18件**となる。

※**世界遺産候補**として**13件**が**暫定リスト**に掲載されている。(富岡製糸場と絹産業遺産群を含む。)

研究の背景

○世界遺産登録による観光振興への期待感

- ・自然環境や文化遺産の意義・価値が世界的に認められた。
- ・知名度が向上し、全国各地から観光客が来訪する。
- ・国際的なブランド価値が高まり、外国人観光客も増える。

○世界遺産登録前後はマスコミに取り上げられることも多く、観光客数の増加等が報じられている。

(最近の事例)

富士山(平成25年6月登録)

- ・7月上中旬の登山者数は対前年比35%の増加で約8千人
- ・「美保の松原」の週末観光客数は20%の増加で約8千人

富岡製糸場(平成26年4月登録勧告、6月に登録の見込み)

- ・今年のGWには昨年の3倍の約5万人が来訪

研究の背景

○しかしながら、**長期的な観点に立った場合、世界遺産は、観光振興による地域の活性化に本当に寄与していると言えるのか。**

疑問点

- ①長期にわたって安定した観光需要が確保されているか。
- ②外国人観光客の人数や観光動向は、どのように変化したのか。
- ③世界遺産所在地は、経済面、社会文化面で、どのようなメリットを享受したのか。

○また、**世界遺産登録の本来の目的は遺産の保全。観光客の増加により、世界遺産の価値が損なわれるおそれが生じるなどの問題は生じていないか。**

研究の目的

○世界遺産と観光の関係を明確化

(実態面の整理)

- ・登録後の長期的な観光動向
- ・観光が地域に及ぼす影響(プラスとマイナス)

(関係者の取組み、問題意識の整理)

- ・地方自治体等の取組み、問題意識
- ・観光客、旅行業者、有識者等の要望や意見

○世界遺産観光に係る課題事項の抽出

○世界遺産を活用した持続的な観光振興のあり方を検討

- ・世界遺産所在地にとどまらず、地域固有の観光資源を活用して観光振興を図ろうとする地域に対しモデルケースを提示

研究の全体像

①世界遺産についての基礎的な事項の整理(文献調査)

②世界遺産と観光の関係について整理

世界遺産の類型化と重点研究対象の絞り込み(5件)

重点研究対象のケーススタディ

- 登録後の長期的な観光動向／観光が地域に及ぼす影響
- 関係者の取組み、問題意識の整理

文献調査、地方自治体等ヒアリング及び観光客アンケート

旅行業界、JNTO等へのヒアリング
世界遺産観光の現状と問題点

一般国民のネットアンケート
観光ニーズ、遺産保全への協力

③世界遺産観光に関する課題事項の抽出

④課題対応の検討に必要な参考情報の収集・整理
有識者インタビュー、海外の世界遺産観光の事例

⑤世界遺産を活用した持続的な観光振興のあり方の検討

世界遺産の概説

◎世界遺産条約に基づいてユネスコの世界遺産リストに登録された人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を持つ物件

文化遺産 建築物、建造物群、遺跡など

自然遺産 地形、生物多様性、景観美などを備えた地域

複合遺産 文化遺産と自然遺産の両方を兼ね備えたもの

◎世界遺産の総数

○130ヶ国に981件(文化遺産759件、自然遺産193件、複合遺産29件)

○地域的には欧州に集中(全遺産の4割超、文化遺産の5割超)

◎世界遺産の保全

○世界遺産保有国は遺産を保護管理する責任。6年毎に遺産の保全状況を世界遺産委員会に報告し、再審査を受けることが必要。

○世界遺産としての価値をゆるがすような脅威にさらされている場合には危機遺産リストに掲載。→状況によっては登録抹消。

◎世界遺産と観光の関係

○世界遺産大国は観光大国でもある。

登録件数	外国人旅行者受入数	
1位イタリア(49件)	4636万人(5位)	※米国は世界遺産が8位 (21件)、外国人旅行者 は2位(6697万人) 国立公園大国
2位中国(45件)	5773万人(3位)	
3位スペイン(44件)	5770万人(4位)	
4位フランス(38件)	8302万人(1位)	
ドイツ(38件)	3041万人(7位)	

○観光は世界遺産にとって脅威ともなり得る。

世界遺産が直面する脅威の例

自然劣化、自然災害、戦争や内戦による破壊、人為的な破壊、
経済開発優先による脅威、都市開発による脅威、**観光事業の増加**

○過去にはガラパゴス諸島が観光客の増加による環境悪化等を理由に
危機遺産リストに掲載されたことがある。(2007～2010年)

世界遺産と観光の関係についての整理

①日本の世界遺産の類型化と研究対象の絞込み

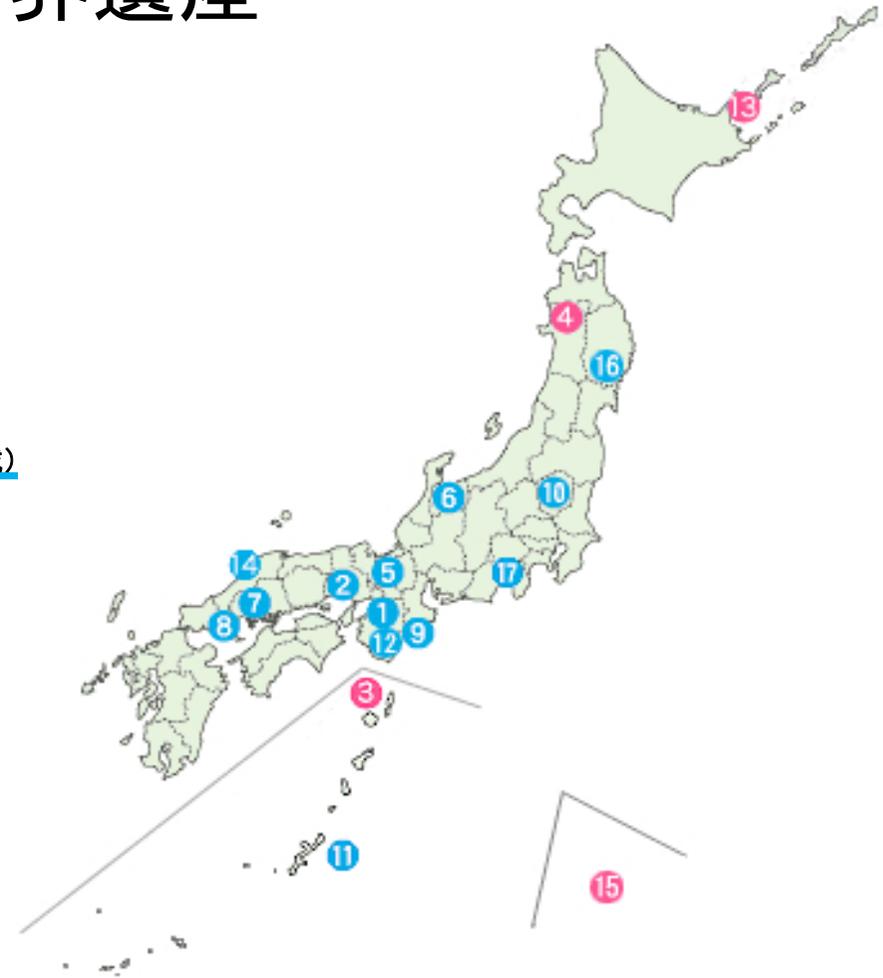
○日本には17件の世界遺産が存在（自然遺産4件、文化遺産13件）

○世界遺産登録地には、以前からの有名な観光地もあれば登録前はあまり知られていなかった所もある。17件を一律に扱うのは適切でない。

○先行的な分析事例（高崎経済大学・新井等）に従い、登録後の観光客数の変化により世界遺産を次の3タイプに類型化。

日本の世界遺産

- (1) 法隆寺地域の仏教建造物(奈良県生駒郡斑鳩町)(平成5年記載)
- (2) 姫路城(兵庫県姫路市本町)(平成5年記載)
- (3) 屋久島 (鹿児島県熊毛郡屋島町)(平成5年記載)
- (4) 白神山地(青森県西津軽郡、秋田県山本郡)(平成5年記載)
- (5) 古都京都の文化財(京都市、宇治市、大津市)(平成6年記載)
- (6) 白川郷・五箇山の合掌造り集落(岐阜県白川村、富山県南砺市)(平成7年記載)
- (7) 原爆ドーム(広島市中区大手町)(平成8年記載)
- (8) 厳島神社(広島県 廿日市市)(平成8年記載)
- (9) 古都奈良の文化財(奈良県奈良市)(平成10年記載)
- (10) 日光の社寺(栃木県日光市)(平成11年記載)
- (11) 琉球王国のグスク及び関連遺産群(沖縄県那覇市他)(平成12年記載)
- (12) 紀伊山地の霊場と参詣道(三重、奈良、和歌山三県)(平成16年記載)
- (13) 知床(北海道斜里町、羅臼町)(平成17年記載)
- (14) 石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県大田市)(平成19年記載)
- (15) 小笠原諸島(東京都小笠原村)(平成23年記載)
- (16) 平泉－仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群(岩手県西磐井郡平泉町)(平成23年記載)
- (17) 富士山－信仰の対象と芸術の源泉(静岡県・山梨県)(平成25年記載)



○世界遺産の類型化

A: 登録により観光客が急増

- ・白神山地、屋久島、白川郷、琉球グスク群、紀伊山地の霊場と参詣道、石見銀山
- ・登録を契機に全国的な観光地として確立

B: 登録後も堅調に推移又は登録によって下げ止まり

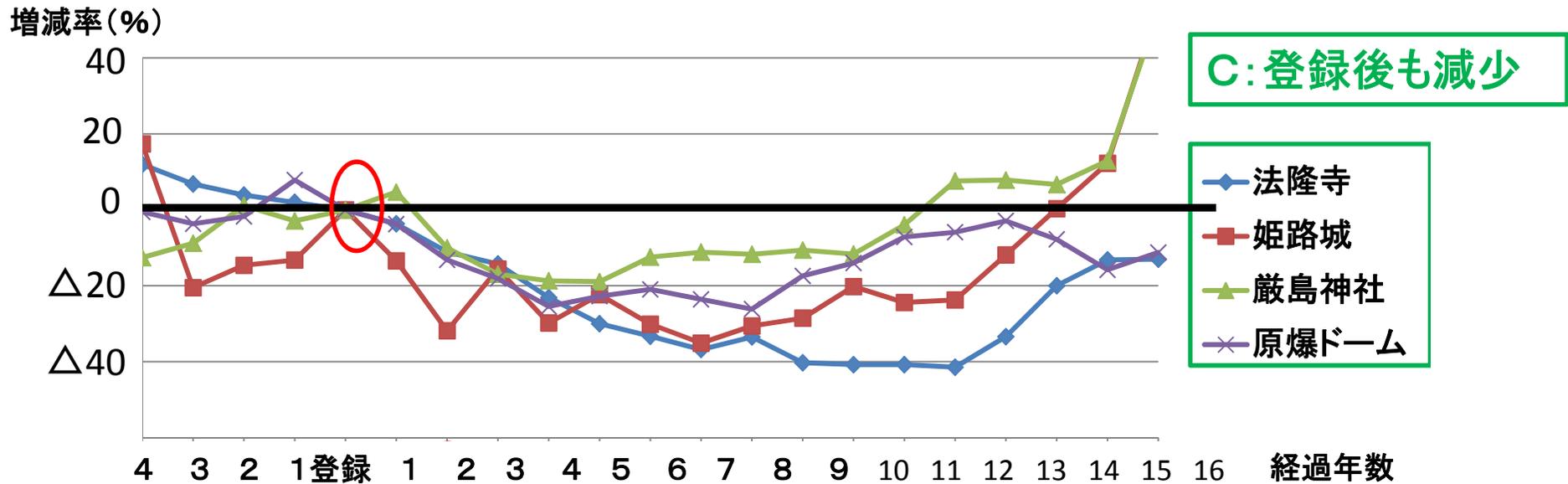
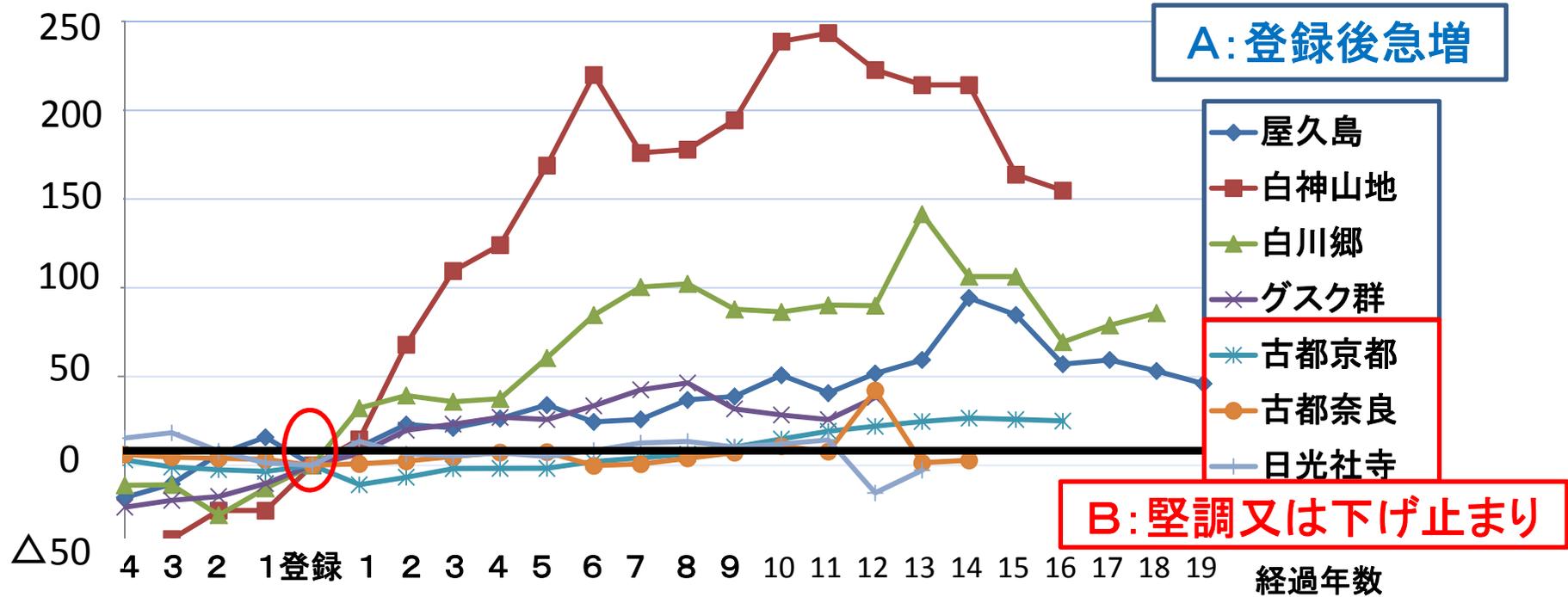
- ・古都京都、古都奈良、日光社寺
- ・登録前から有名な観光地で遺産が広範囲に点在。

C: 登録後も観光客が減少

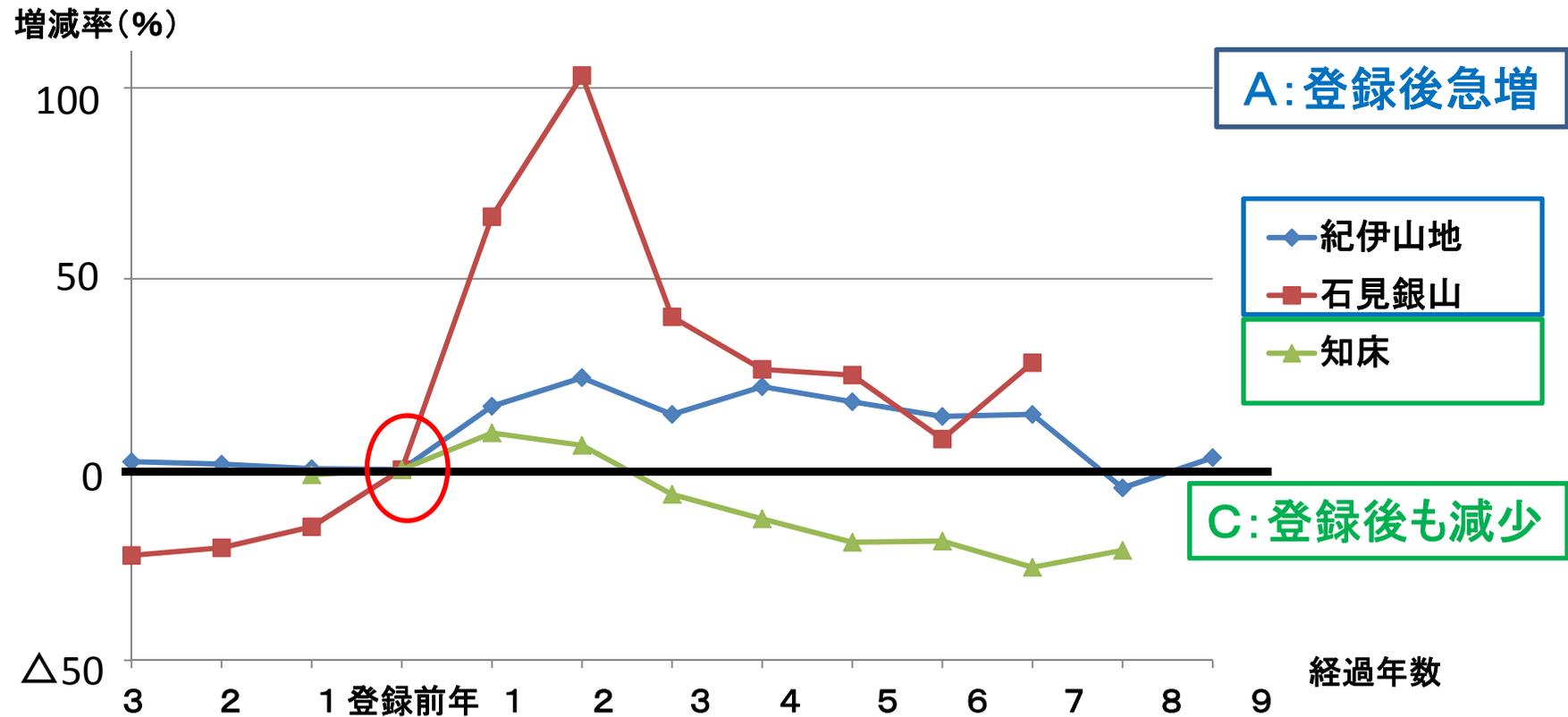
- ・法隆寺、姫路城、厳島神社、原爆ドーム、知床
- ・登録前からの有名な観光地で、知床以外は大都市又はその周辺に単独で存在。

※小笠原、平泉及び富士山は登録からの経過年数が少ないので除外。

増減率(%) 1993～2000年に登録(12月に登録。登録翌年から観光客の増効果)



2004～07年に世界遺産登録(6～7月に登録。登録年から観光客の増加効果)



○重点研究対象

本研究の目的と照らし合わせ、遺産登録により全国的な観光地となったAタイプの世界遺産を重点研究対象とする。

ただし、全国有数のリゾート地である沖縄本島所在の琉球グスク群は対象から除外する。

自然遺産	屋久島、白神山地
文化遺産	白川郷、紀伊山地の霊場と参詣道、石見銀山

②文献調査(重点研究対象5件)

1 観光客数の推移

○世界遺産登録を契機に観光客は急増したが、**長期的には伸び悩みから減少傾向に転じている。**

単位:万人

	平成 4	平成 5	平成 6	平成 7	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18	平成 19	平成 20	平成 21	平成 22	平成 23	平成 24
屋久島	24	21	23	26	32	29	32	33	41	39	33	33	32	—
白神 山地	18	21	24	36	72	73	68	67	67	56	54	—	—	—
白川郷	68	59	67	77	156	145	144	147	146	186	173	159	131	138
紀伊 山地	—	—	—	—	935	1090	1160	1070	1138	1101	1065	1070	890	964
石見 银山	—	—	—	—	31	32	34	40	74	81	56	51	50	43

2 観光の実態

- 定量的なデータは全般的に不足
- 観光客は特定のエリアに集中する傾向
 - ・屋久島であれば山岳部(特に縄文杉)、石見銀山であれば大森(銀山遺跡と鉾山町)
- 観光客の滞在時間
 - ・屋久島では宿泊客が7割。紀伊山地の霊場・参詣道は温泉地を含んでおり、宿泊客が3割。
 - ・白川郷、石見銀山は滞在時間の短い通過型観光客が多い。
- 個人／団体
 - ・紀伊山地の霊場・参詣道や石見銀山では登録直後は団体(観光バス)の比率が高かったが、次第に個人客(乗用車、公共交通)の比率が増加したとされる。

3 外国人観光客の動向

○東京と京都・大阪を結ぶゴールデンルート上には位置していない。

○人数としては少ない。

屋久島 2100名(平成24年延べ宿泊者)

白川郷 日帰り13.4万人、宿泊1.5万人(平成25年)

紀伊山地 7.9万人(平成24年延べ宿泊者。和歌山県内)

石見銀山 1600人(平成25年)

○屋久島、白川郷、紀伊山地の霊場と参詣道(高野山・熊野三山・熊野参詣道)はミシュランの三ツ星に登録されている。

○紀伊山地の霊場・参詣道のうち高野山等では欧米豪の個人客が6~8割を占める。

屋久島も欧米系の個人客の割合が高いとされる。

4 観光が地域に及ぼすプラスの影響

(経済面の効果)

○屋久島

- ・人口減少及び高齢化進行の抑制
- ・就業人口の現状維持(一次・二次産業の減少を三次産業で吸収)
- ・商業指標(商店数、販売額等)の現状維持
- ・観光事業者の増加(20年間で宿泊施設は3倍、ガイドは8倍)

(社会文化面の効果)

○屋久島

- ・学識経験者による意識調査(平成16年度)では、島民の誇りはやや増加。島民は世界遺産登録を概ね好意的に受入れ。
- ・山岳信仰「岳参り」の再興

○石見銀山

- ・伝統芸能「石見神楽」の維持

5 観光が地域に及ぼすマイナスの影響

○屋久島(平成5年登録)

- ・縄文杉登山者等の増加により、登山道の劣化、杉の根の踏み荒らし、し尿及びゴミの処理等の問題が深刻化＝環境保全に支障



- ・抜本的な対策が必要

①縄文杉登山者の人数制限(1日420人)→条例案の提出・否決

②環境保全財源の観光客等からの徴収を検討中
(入山税(料)又は入島税(料))

○白川郷(平成7年登録)

- ・観光車両による交通渋滞の発生
- ・駐車場の設置等による景観の悪化
- ・ユネスコ諮問機関(イコモス国内委員会)から改善を求めるコメント



- ・交通規制の導入

観光バスの通年乗入規制(平成22年)

乗用車の通年乗入規制、合掌集落地区内の駐車場全廃(平成26年
予定)

登山者で混雑
する縄文杉



し尿処理
人力での搬出



白川郷合掌集落地区内の
交通渋滞



○石見銀山(平成19年登録)

- ・白川郷を教訓にして、登録時にパーク&ライド方式を導入。
世界遺産センター駐車場と大森地区、大森地区内(間歩(坑道)と
鉾山町の間。約2.3km)は路線バスで移動。
- ・観光需要対応の増便・増発で環境・騒音・振動・安全の問題が発生。
↓
- ・パーク&ライド方式でも観光と遺産保全(住民生活)は両立しない。
↓
- ・平成20年9月末で路線バスを廃止。
大森地区内の移動は徒歩又は自転車(歩く観光に転換)
遺産保全との調和は達成。しかし、観光客は減少に転じる。



世界遺産センター駐車場から大森町は路線バスで移動(15分に1本)

世界遺産センター・大森

5分200円

大森・大森代官所

2分160円

世界遺産センター・大森代官所

7分240円

大森・龍源寺間歩間の路線バスは2008年9月末で廃止

片道2.3kmの区間は徒歩又は自転車で移動

③地方自治体等へのヒアリング

◎ヒアリング対象

重点研究対象5件から石見銀山と屋久島の2件を選定。(必要に応じて追加)

石見銀山
文化遺産、通過型(滞在時間は短い)

屋久島
自然遺産、宿泊滞在型

観光客数は、ほぼ同じ。
単一の市町内に世界遺産が存在。
観光振興と遺産保全との関係でジレンマを抱えている。

◎ヒアリング項目

登録後の長期的な観光動向の詳細

観光客の属性や旅行形態の変化、観光客数が減少に転じた要因
世界遺産を活用した観光振興に向けた取り組み

観光客の誘致・受入れ、観光振興と遺産保全の調和

◎ヒアリングの実施状況

石見銀山 平成26年3月、4月
島根県、大田市

屋久島 平成26年4月
鹿児島県



世界遺産の構成



大田市
人口3.7万人
うち大森地区
約400人

大森地区：銀山遺跡と鉱山町
温泉津地区、仁摩地区：港と港町

龍源寺間歩



大森の街並み



温泉津 沖泊の港



仁摩 鞆ヶ浦の港



仁摩 琴ヶ浜(鳴り砂)



温泉津 温泉街



仁摩 サンドミュージアム



ヒアリング結果(石見銀山)

◎登録後の長期的な観光動向

○観光客の属性等

- ・年代は30～50代が6割、リピーターは1割程度。
- ・観光客の居住地は全国に及ぶ。(首都圏、関西圏も各2割超)
- ・世界遺産の構成要素(坑道や鉱山町)、ガイドやスタッフの対応は評価が高い。
- ・アクセス交通、域内移動手段の不便さには不満が出ている。

○観光客が減少に転じた要因

- ・登録前:40万、登録1～2年目70～80万、その後60～50万
- ・最大の要因は地域内路線バスの廃止＝歩く観光への転換。
- ・観光地として伸びる要素は備わっていると認識。

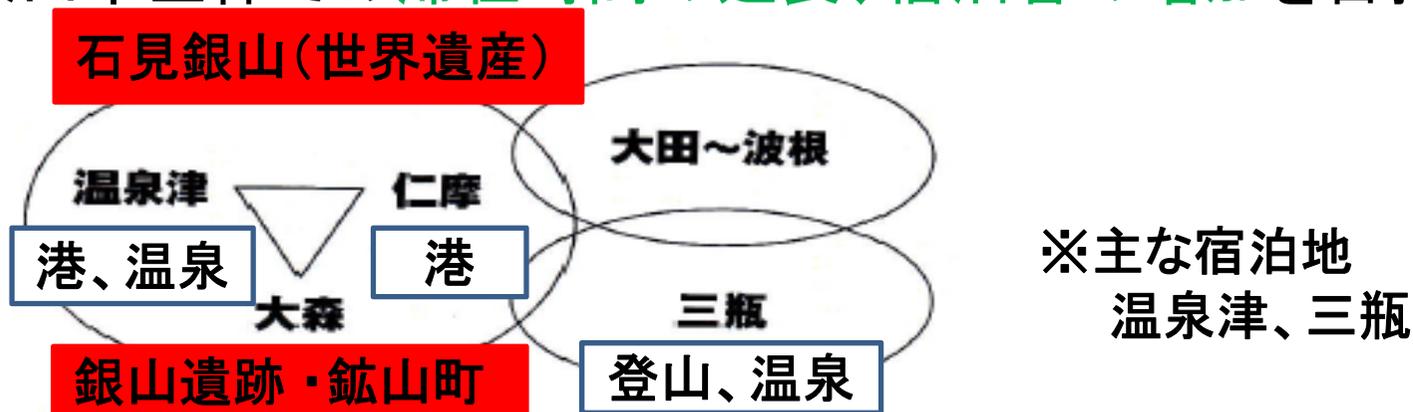
◎観光振興に向けた取組み

○取組み体制

- ・大田市及び大田市観光協会が主体。島根県は支援する立場。
- ・観光協会は旅行会社OBを観光コーディネーターとして採用。

○基本的な方向

- ・世界遺産の価値の伝達に重点。(量よりも質)
- ・石見銀山(大森)の観光客を大田市の他の観光地に回す。
→大田市全体での**滞在時間の延長、宿泊客の増加**を目指す。



- ・広域的な観光ネットワークの構築

島根県東部(松江、出雲大社)

広島(厳島神社、原爆ドーム、石見銀山の3世界遺産連携)

○具体的な取り組み

(観光客の誘致)

- ・観光協会が主体となり3ヶ年計画で団体客の誘致を強化。
石見銀山訪問＋大田市内に1泊、着地型旅行商品も開発
- ・個人客については特定のターゲットを未だ設定していない。

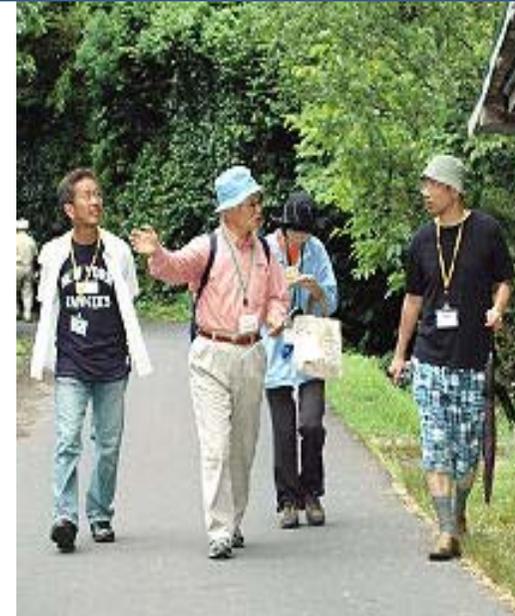
(観光客の受入)

- ・大森地区での快適な移動の確保
休息場所の整備、レンタサイクルやベロタクシーの充実
高齢者限定での電気バス復活を検討
- ・石見銀山ガイドの充実(74名、平均年齢67歳、地元出身)
一般人には分かりづらい銀山の価値を説明、銀山のことを楽しく学びながら移動 → 観光客の満足度向上に直結
音声ガイド機の貸し出し
- ・ホスピタリティの向上

ペロタクシー



石見銀山ガイド



音声ガイド機
4カ国語対応
(日、英、中、韓)



◎観光振興と世界遺産保全との調和

(観光客数の適正規模)

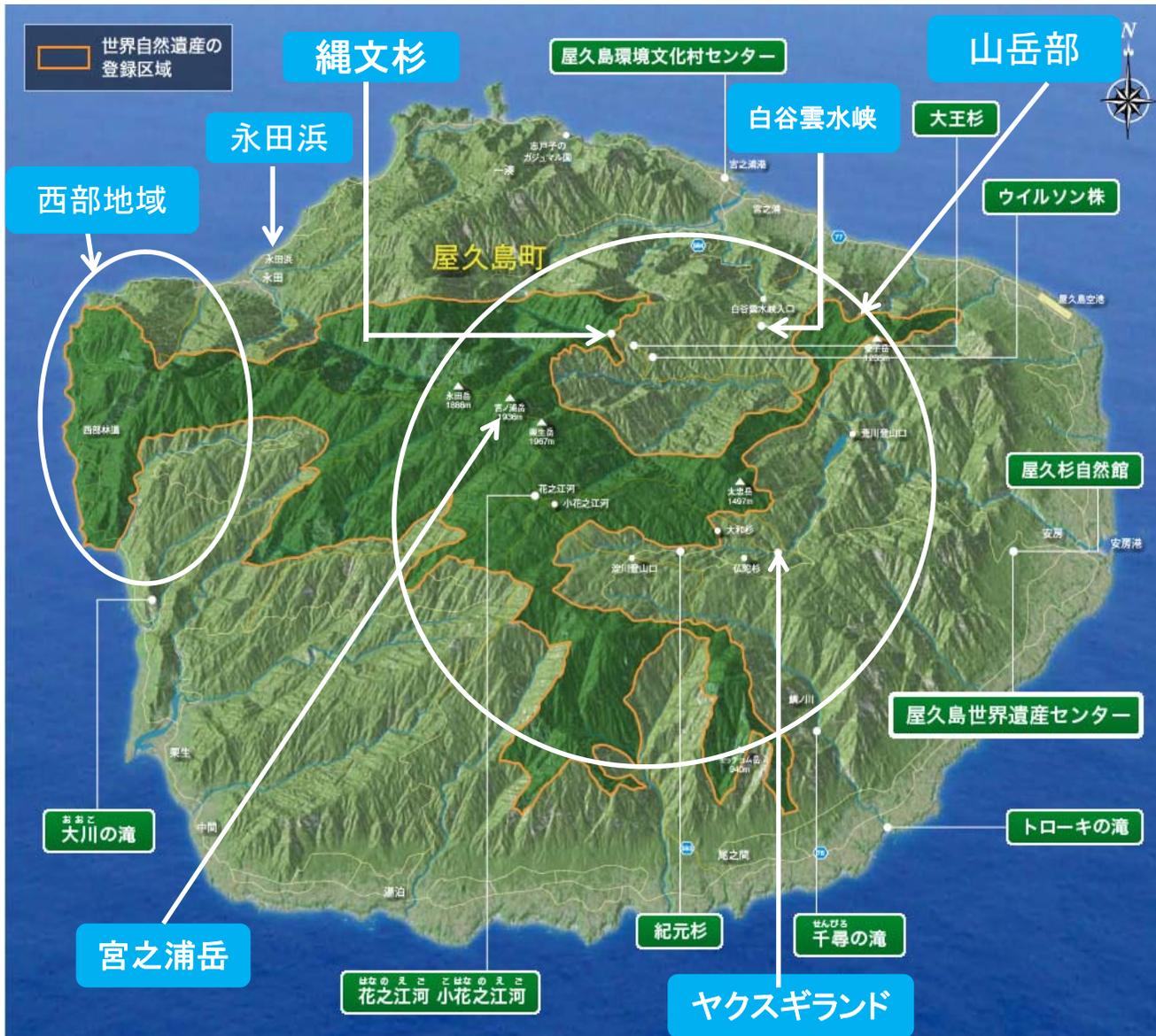
- ・観光客の適正規模を示すのは難しいが、**ピーク期(70~80万人)**は**オーバーユース**とも言える状況。
- ・観光客を増やすよりも**滞在時間の延長**による経済効果の拡大を重視。

(観光客への課金)

- ・遺産保全財源 = **石見銀山基金**(行政拠出、民間寄付。4億円)
→ **観光客への課金は不要**。
- ・**石見銀山で通用する電子マネーの売上金の一部が基金に寄付される仕組みの導入**。

(観光客のマナー)

- ・登録直後は非常に悪かったが、**最近では改善されている**。
ゴミ投棄、住民のプライバシー侵害は殆どない。



ヒアリング結果(屋久島)

○観光客の動向

- ・登録時**20万人**、ピーク時**40万人**、その後は**30万人台**
登録効果と登山業界のキャンペーンで**10万人**の増加
40万人は高速船の値下げなど**特異な事情**によるもの。
- ・**縄文杉登山者等の過半は普段山に行かない人。**
一度来れば満足するタイプが多い。リピーター化は難しい。

○観光振興に向けた取組み

- ・屋久島町が主体となって対応し、県が支援する形が望ましい。
- ・**売り手市場のため、戦略的な取組みがなされてこなかった。**

○観光振興と世界遺産保全との調和

- ・縄文杉等の人数制限は断念。環境保全財源の徴収を検討中。

(入島税、入山料など。年内に結論)

- ・観光客の増加よりも**滞在期間の延長**による経済効果の拡大³⁵

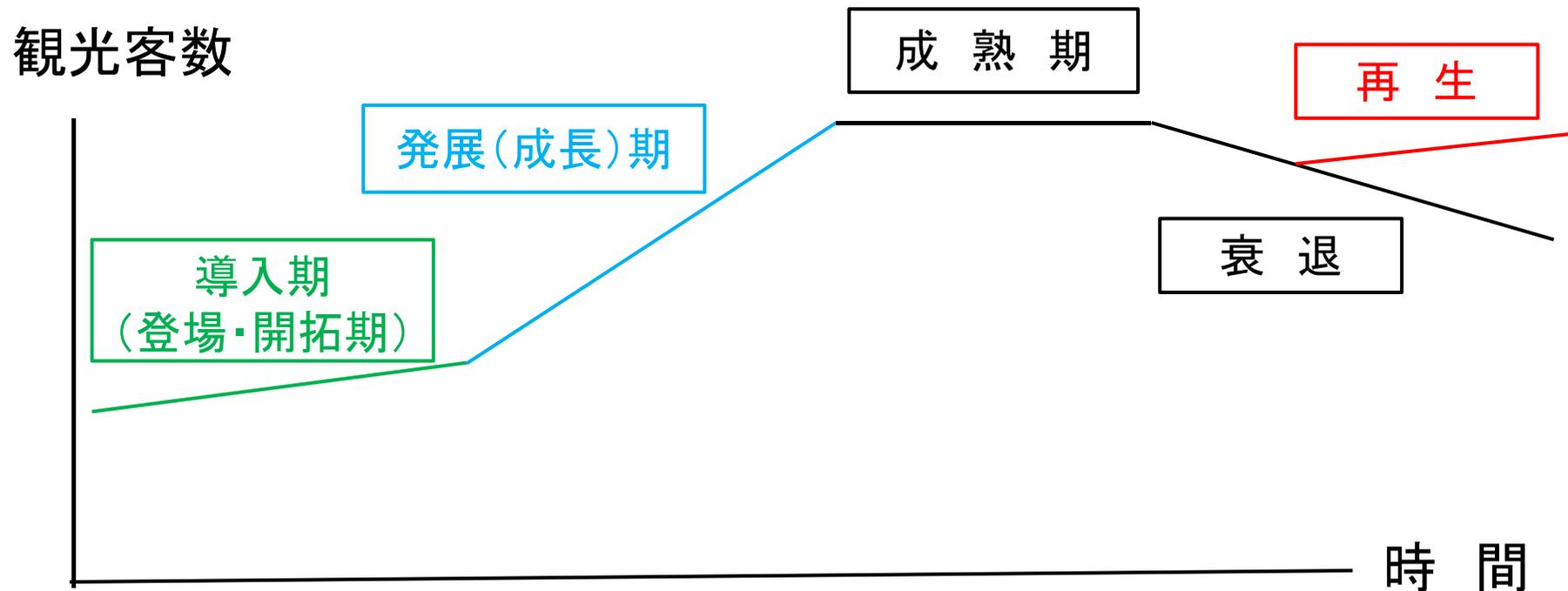
④まとめ

- 地方自治体等には世界遺産の観光資源としての魅力が低下したとの認識はない。
- しかしながら、観光地には「導入→発展→成熟→衰退又は再生」のライフサイクルが存在。
- 観光客数の減少傾向への転換は、成熟から衰退に向かっていることを示しているようにも考えられる。
(世界遺産は登録効果が大い分、スパンが短い。)



- 地方自治体等においては、戦略的な観光振興策を講じることによって観光需要を確保し、観光地としての再生を図る必要があるのではないか。
- なお、世界遺産の保全は国際的な責務なので、観光振興により遺産保全に支障が生じないように、最大限の配慮が必要。

観光地としてのライフサイクル



※観光地ライフサイクルに関する資料(出典:ジョン・トライブ著[2007]、『観光経営戦略』、センゲージ ラーニング社)を参考にして作成

導入期: 世界遺産登録に向けた準備活動の展開。観光客が徐々に増加。

発展期: 世界遺産登録を契機に観光客が急速に増加。

成熟期: 世界遺産ブームが沈静化し、観光客数は伸び悩み。

世界遺産を活用した観光振興のために求められる取組み

◎長期・安定的な観光需要の確保

観光動向を把握した上で、**ファーストカマーの獲得**と**リピーターの育成**に取り組む。

- ・**ファーストカマーの獲得** **ターゲットを設定した誘致戦略**
- ・**リピーターの育成** **満足度の向上、観光メニューの多様化**

○インバウンド観光の振興

○経済効果を高める工夫(滞在時間の延長など)

◎観光振興と世界遺産保全との調和

- ・**観光客の過度な増加**に対しては**観光需要の抑制策が必要**
人数制限／交通規制／課金
- ・世界遺産に対する**過剰な負荷を回避しつつ観光の振興を図る工夫**
も重要
需要の地域的・時期的な分散、需要喚起よりも滞在時間の延長
- ・世界遺産保全財源の観光客からの徴収
- ・観光客のマナーの普及・啓発

今後の進め方

◎石見銀山、屋久島関係のヒアリングの継続

石見銀山 県、市以外の地域の関係者

屋久島 屋久島町その他の地域の関係者

◎観光客アンケート調査(石見銀山、屋久島)

○調査時期

夏休み又は秋季。可能であればオフ期にも実施。

○調査事項

世界遺産所在地での活動実態、満足度、再訪問意向の有無
と、その理由、遺産保全財源の徴収についての賛否

◎一般国民へのネットアンケート調査

○世界遺産の訪問経験、訪問時の満足度、再訪問意向の有無
今後の訪問希望

◎旅行者ヒアリング、JNTOヒアリング、有識者インタビュー、 海外の世界遺産所在地での事例収集 等



◎これらの結果を総括し、世界遺産観光に関する課題を抽出

ご清聴ありがとうございました。